

異常気象が頻発している(1)

最近、世界各地で異常気象が観測されています。例えば、熱波、干ばつ、大洪水などです。温暖化が進むと、このような異常気象が増大する可能性があるといわれています。

森林火災の多発

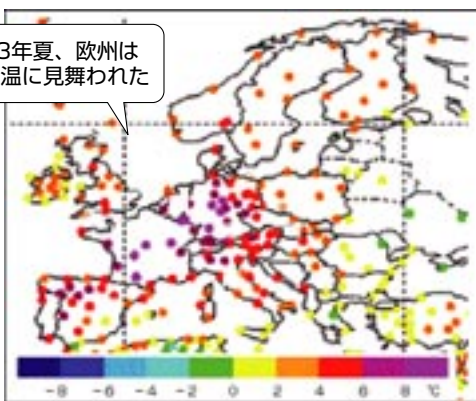
2003年には、アメリカ、カナダ、ポルトガル、スペイン、シベリアなど世界各地で森林火災がおきました。ポルトガルでは、全森林の約8% (約4,170km²) を焼失、18人が死亡するなど、過去20年間で最悪の山火事となりました。

ポルトガル、モンタルバオの山火事
©Greenpeace/Armestre (文献4より)

欧州の熱波

欧州は、2003年の夏、熱波に襲われました。パリでは、8月の日最高気温が平均約24℃ですが、この年は8月12日に40.0℃を記録しました。この熱波により、フランスでは約15,000名が死亡したとされています。

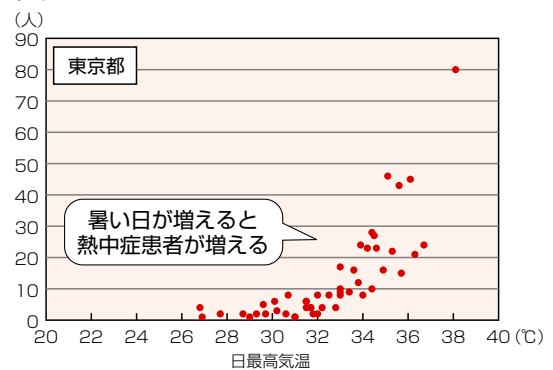
2003年夏、欧州は異常高温に見舞われた



■ ヨーロッパの平均気温年差の分布図
(2003年8月1~12日平均) (文献5より)

東京などの大都市でも、夏の暑い日には熱中症で倒れ、病院に運ばれる人が増えます。この傾向は35℃付近から飛躍的に増加しています。

温暖化によって、暑い日が増えると、特に脆弱な立場にある高齢者を中心に死亡率が増大する可能性があります。



■ 東京都における日最高気温と熱中症患者発生数
(文献6より作成)

洪水が多発

2002年の夏、ヨーロッパ各地で数百年に一度という大規模な洪水がおきました。多くの人命が失われるとともに、川の堤防が壊れ、鉄道や道路、建物などにも大きな被害が及びました。チェコ、オーストリア、ドイツ、フランスの4ヶ国で、70人以上が死亡、40万人以上が避難し、被害額は推定160億ユーロ (約2兆1,760億円*) に上りました。

* : 1ユーロ=136円 (2004年3月時点)

エルベ川の小支川ミュエグリッツ川において救助を待つ人 (文献7より)